

京都医療センター（京都府）

病床数

600床

病院の特徴

同院は、独立行政法人国立病院機構政策医療ネットワークの中で、内分泌・代謝性疾患の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・腎及び感覚器疾患の専門医療施設に指定され、その他、政策医療としてはエイズ治療・国際医療協力施設として位置づけされている。

また、高度で総合的な医療機能等を備えた施設（高度総合医療施設）にも指定されており、約4割をがん患者が占めている。さらに、SARS（重症急性呼吸器症候群）や鳥インフルエンザなどの多発する感染症対策として、SARS 講習会を実施したり、陰圧式の隔離外来を設置するなど、地方自治体とも連携しながら、地域医療の向上にも努力している。

政策医療の実施にあたっては、診療のみならず、臨床研究、教育研修、情報発信の機能と一体となった医療提供体制を整え、地域の医療機関との密接な協力のもとに、きめ細やかな医療を提供し、その使命を果たしている。

また 2011 年 1 月には新病棟がオープンしました。2 階に救命救急センター、3 階に特別室個室（30 床）、5階には京都府がん診療連携拠点病院のなかでは初めてとなる、緩和ケア病棟（全個室 20 床）があります。

医師数

182 名（2010 年 4 月 1 日現在）

初期研修医定員 1 年次

単独型 10 名（2010 年実績）/ たすきがけ 2 名（2010 年実績）

// 2 年次

単独型 11 名（2010 年実績）/ たすきがけ 2 名（2010 年実績）

処遇

身分：非常勤職員

給与：約 300,000 円 / 月 通勤手当、宿日直手当は別途支給

保険：各種保険あり

宿舎：あり

研修プログラムの特徴

- ・診療科がそろっており症例が豊富
- ・診療各科の垣根が低く、気軽にコンサルテーションがうけられる
- ・内科ローテーションでは総合診療のみならず、早期から内科系各科の専門医の指導がうけられる

- ・京都府下に3カ所しかない救命救急センターの一つを擁する
- ・京都府下でも最も分娩扱い数が多い病院の一つである
- ・EBMを重視し、クリニカスバルの導入に積極的である
- ・院内各所よりインターネット・LAN利用可能でUpToDate、CochraneLibraryも利用可能
- ・オーダーリングシステムが完備し、平成16年より完全電子ファイル化されている
- ・MSWの常駐する地域医療連絡室をもち、病診連携が密
- ・大学病院との臨床研究面での連携が密である

研修スケジュール

オリエンテーション約1週間(4月上旬)

必須： 16ヶ月

内科(6ヶ月)： 総合内科・血液内科(必修)、消化器科、循環器科、呼吸器科、
糖尿病・内分泌内科・腎臓内科、神経内科・脳神経センターの6群から3つを選び、各
2ヶ月、計6ヶ月まわる。
小児科(2ヶ月)、外科(2ヶ月)、産婦人科(1ヶ月)、麻酔科(2ヶ月)、
救命センター(2ヶ月)、地域医療(診療所・保健所・消防署3カ所合計1ヶ月、
もしくは離島1ヶ月)

選択： 8ヶ月： 精神科※(洛南病院)、皮膚科、整形外科、形成外科(2年次のみ)、脳神経外科、
心臓血管外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、外来精神科、
結核医療(南京都病院)、神経難病医療(宇多野病院)から選択(1~2か月ずつ、最大
8ヶ所) ※洛南病院における精神科研修を推奨しています

※ 研修紹介スケジュール 例

1年目

4,5月	6,7月	8,9月	10,11月	12,1月	2,3月
内科①	総合内科 血液内科	麻酔科	救命	外科	内科③

2年目

4,5月	6,7月	8,9月	10,11月	12,1月	2,3月
小児科	産・地域	選択①	選択/精神	選択③	選択④

指導医から学生さんへのメッセージ

救命救急センターと総合内科を擁し、京都大学医学部附属病院では診る機会の少ないcommon diseaseや様々な疾患の急性期を経験することができます。

当直では、1、2年次もERチームの一員として一次から三次救急まで担当します。その結果については、毎朝救命科と総合内科の合同カンファレンスでレビューします。

当直の回数は月5-6回になりますので、それを覚悟の上、選択して下さい。